



# ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当:上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 (内線1406) FAX.025-526-6114

ホームページ⇒

ふるさと上越



上越市在住 山田孝さん撮影

## 「たより」No.270 目次

会員数とふるさと市場報告	1
Jネットの活動とお知らせ	2
とれたて上越	3
・上越の行事・展示会の予定	
・上越の話題	
上越市誕生 50 周年、冊子「不思議板倉郷」の発刊、 上越カフェ巡り (その 2)	
チャレンジ上越	5
・フルサットで始めたフルサットの話 (その 2)	
北信越地域資源研究所 代表取締役 平原 匡氏	
上越産品販売のお知らせ	7
会員ひろば	7
上野駅 溝口良二会員	
上越市からのお知らせ	8
鯉橋師匠高座予定	8
Jネットからのお知らせとお願い	8

※ホームページ「ふるさと上越ネットワーク」(2020年4月改定)では、「たより」をカラーでご覧いただけます。

## 会員数と「ふるさと市場」販売報告

(1) 会員は現在 596 名です。(令和 3 年度目標 610 名)

(2) 「ふるさと市場」(4 月合計) の販売状況 60 点 ¥114,503 (前年同期 48 点 ¥75,849)

### 1. 令和3年度定時総会は書面にて開催

令和2年度定時総会は、コロナ禍のため、昨年同様、書面により開催します。

会員の皆様には、同封の年次総会資料をご覧ください、同封の葉書に、議案について賛否または議長への委任に印を付け、令和3年6月24日までに投函にてご返送くださいますよう、お願いいたします。

本総会決議の結果は、JネットHPおよび「たより」7月25日号にてお知らせいたします。

### 2. 文化講演会の開催 大変お待たせしました。ご出席、お待ちしております。

昨年来、延期の続いた文化講演会を下記にて開催します。

東京オリンピック・パラリンピックを前にいろいろな議論がありますが、長年、オリパラ運動に携わってこられた講師が、スポーツを教育や芸術を含めた文化ととらえ、オリパラ運動の本質についてお話しします。

開催日：令和3年7月8日（木）17：00－19：00 リモートにて開催

（講演約1時間。その後サロンとして、ご自由に飲食）

演 題：オリンピック・パラリンピック運動とは？

講 師：瀧澤康二氏 国際体操連盟名誉副会長。日本体育大学同窓会前会長。  
東京板倉会名誉会長。当会Jネット会員。

リモート開催ですが、操作は簡単。送信されたURLを、講演開始5分前に、クリックするだけです。操作に自信のない方には、事前に操作方法をお伝えします。

#### 【お申込み】

PCやスマホ、タブレットから、事務局宮里 [k.miyazato@araipt.co.jp](mailto:k.miyazato@araipt.co.jp) までメールで御氏名を付してお申し込み下さい。URLをお届けします。当日は、このURLをクリックするだけで出席できます。なお、皆様のメールアドレスの使用は、本件限定として、本件終了後は破棄いたします。

### 3. サロンを再開 ー リモートで開催。リアル会合は当面休止。

5月13日（木）、オンラインでサロンが行われました。1年3ヶ月ぶりの再開です。参加者は20名に満たない少人数でしたが、それでも、コロナ禍の巣ごもり生活をたくましく過ごすお話など、楽しいひとときでした。飲食自由で、2時間となると結構、酔いが回りました。

◎今後もサロンを行います。



2021.5.13(木) サロンに参加のみなさん

第二木曜日 17：30－19：00 で、途中参加や中座は自由、もちろん、飲食も自由です。

コロナ禍終息まではリモート開催です。クリック1つで参加できますし、事前に操作のご案内もします。ぜひ、ご参加ください。

リモート開催日：6月10日、7月8日（文化講演会后です）、8月12日。

いずれも第2木曜日です。全国から参加できます。

お申込み：事務局宮里 [k.miyazato@araipt.co.jp](mailto:k.miyazato@araipt.co.jp) までメールにて御氏名を付してお申込みください。URLをお届けします。

## 4. ホームページ（HP）

一 会員は、上越タイムス電子版に加えて、上越妙高エリア情報の動画もご覧いただけます。

JネットHPは、上越のカラフルで大きな写真 18 枚、当会からのお知らせや「たより」、関連サイトへのリンクなどが見やすく好評です。ぜひとも、ネットにて、「ふるさと上越ネットワーク」、または <https://joetsu.gr.jp/> を検索してご覧ください。

会員限定サービスとして、上越タイムス電子版閲覧に加えて、4 月末から、上越ケーブルビジョン社（JCV）様のご好意により同社の動画サービスの提供が始まりました。上越妙高エリアの今をお楽しみください。

### (1) 上越タイムス電子版へのアクセス

- ① HP 右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックしHPへ
- ③ 下記のID・PSWにてログインしてください



### (2) 上越ケーブルビジョン動画へのアクセス

- ① HP 右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックしHPへ
- ③ 下記のメールアドレス・PSWにてログインしてください



## とれたて上越コーナー

### 1. 上越の行事・展示会

#### (1) 第46回上越まつり

八坂神社例大祭（7月29日）のみ実施。高田・直江津祇園祭や花火大会、神輿川下り、屋台巡行などは全て中止。

#### (2) 第42回上越蓮まつり

令和3年7月17日（土）～8月22日（日）。

#### (3) 第96回謙信公祭

令和3年8月21日（土）・22日（日）。出陣行列、川中島合戦再現など中止。

## 2. 上越の話題

### (1) 上越市誕生 50 周年

本年 4 月 29 日は、上越市 50 回目の誕生日。城下町高田・交通の要衝直江津という性質の異なる両市が対等の立場で合併することは、全国でも珍しく、注目を浴びた。昭和 46 年（1971 年）のことです。

上越タイムス紙の特集記事によれば、その合併構想は、戦前からあったが、上越地方に「新潟」「長岡」と並ぶ中核都市を創るという機運が盛り上がってきたのは昭和 30 年代後半。そして、昭和 40 年、両市の青年会議所（JC）が先駆けて、合併。その高田直江津 JC の手で、両市合併運動は一層、推進された。その後、推進と反対の両派の運動が展開されたが、昭和 45 年には両市議会が合併協議会設置を承認し、翌年、上越地方の核となる「上越市」が誕生した。

それは、歴史、文化、産業や住民の気質などでの違いを乗り越えて、お互いを補完し、規模のメリットを図り、未来を拓きたいとの願いでした。

上越市という名称の由来は、上越後（かみえちご）にあるが、合併に先立ち、両市の各種団体にアンケートを実施、250 団体からの回答には、上越市、春日山市、直江津市、高田市、越後市、頸城市、日本海市などが挙げられたが、全体の 3 割強を占めた最多の「上越市」に決まった。

こうして誕生した我がふるさとの上越市は、その後、平成 17 年（2005 年）1 月の 14 市町村合併を経て、この 50 周年の節目を越えて、次の新たな時代に踏み出している。

### 若葉に未来への発展を込めた市章



上越市の「上」を草書体一筆書きにした上越市章。この市章の作者は松川ケイ子さん。なんと、当会 J ネット相談役の松川太賀雄氏の奥様です。

応募時に、ケイ子さんは、幼稚園児の娘さんの一言「葉っぱみたい」にヒントを得て、「上」の字を若葉になぞらえて作成したとのこと。躍動感のある新鮮さと若葉が表す限りない発展が評され、採用された。

その市章も 50 才。松川ケイ子さんからコメントをいただきました。

「娘は『50 年経っても少しも古びていない市章』と褒め、夫は『いい冥途のみやげができたね』とおどける。私は、一躍有名人(?)と揶揄されながら、長きに渡り、生き続けてきたマークの幸運に感慨あるのみです」。

### (2) 冊子「不思議板倉郷」の発刊

「あまりにもミステリー感満載な文化を持つ板倉」の今昔説話集です。

50 頁弱のこの冊子、読んだ後の余韻がすごい。恵心尼の実態に迫る推理、猿供養寺と人柱供養堂の解釈、山寺三千坊や秘仏の密教霊場、中村十作を支えた人脈など板倉や久比岐の不思議がいっぱい。その上質なミステリーを読み手と一緒に考える本です。この本自体がミステリアスといえるのです。

このたび、刊行にあたった、いたくら文化研究会（会長岸田國昭）からご寄贈いただきました。部数は限られていますが、ご希望の会員にお分けします（無料）ので、事務局宮里までお申し込みください。



### 3. 上越カフェ巡り（その2）

古民家、蔵、町家などを活かして、趣向をこらしたカフェを紹介します。今回は、その2回目です。

#### ②山のCafeランプ

2019年6月、江戸時代後期の古民家を改装したカフェ「山のCafeランプ」が板倉区の猿供養寺集落内にオープン。

むき出しの梁やアンティーク感あふれる家具・調度品に混じって店長の松野友美さん（静岡県湖西市出身）が集めたかわいい小物が並び、古民家のレトロ感を演出している。テラスからは、優しい自然の風。川のせせらぎや鳥のさえずりも聞こえます。パテシエ10年の経験をもつ店長の焼くケーキもおいしい。板倉の名水「延命清水」を使ったコーヒーや紅茶も見逃せない。

高田に移住してきた店長がクライミングジム経営のオーナーと知り合っできた店です。

上越市板倉区猿供養寺 357（バスの便あり） 営業時間：午前9時～午後4時。



## チャレンジ上越

### 上越の未来に向かってチャレンジする上越人を紹介します

この数年、ふるさとの上越市では、さまざまな分野で、新しいチャレンジが始まっています。その成果は十分現れているとは言えませんが、上越市の将来にとって頼もしい限りです。

そうしたチャレンジャーの一人、若手の平原匡氏に、「フルサット」の3回シリーズの第2回目を語っていただきます。

### フルサットで始めたフルサットの話（その2）

#### 一産みの苦しみと「フルサット」に込めた願い

北信越地域資源研究所 代表取締役 平原 匡（ただし）

1989年公開のアメリカ映画「フィールド・オブ・ドリームス」を覚えていますか？

主人公は、ある日突然、『"If you build it, he will come."「それを造れば、彼が来る」』という声を聞いて、コーン畑を野球場にして様々な人がやってくるのを願う。

私は子供の頃に父親とこの映画を見たのですが、まさにあれでした。何故か、あの声が私の頭の中にあっただけです。

劇中の土地は主人公所有で、今回のような定期借地とは違いますが、空っぽの土地を見ながらワクワクする感じはまさに映画と同じでした。

この町の新しい場所に自分たちで街を作る。本当にその一心で、毎日取り組みました。メディアにも早くから取り上げられ、「話題」とはなりました。

全国的な媒体からも注目され、コンテナが1つ運ばれてきただけで、新聞記事になる、そういう状況でした。既存の街や建物をリノベーションするプロジェクトではなく、更地からのカタチ作りでした。



平原 匡 社長

しかし、実際はどういう話題かという新幹線の開業に合わせて開発が進まないという話が前に出てしまい、我々のやろうとすることが伝わらない。というより、そもそも大丈夫なのか？ということばかりだったと思います。

どのようなものを作るか？当初イメージしたのは、日本各地にある「屋台村」のようなもの。人と人、情報が行き交う「横丁」空間。「コンテナ商店街」という名がすでにあっただよように、商業空間のデザインとしてはまったく新しい発想ではありませんでしたので、我々はそのからもう一步先へ行きたいと考えました。コンテナの一時性、仮設性と従来からの建築が持つ永遠性の間。デザイン性、象徴性。エリア自体が未完成であり、将来的に付加できる余地。紙でいう「余白」をフルサットに持たせること。駅周辺の開発の様子、資金次第では将来的に順次用途変更、拡張が可能など。硬質のコンテナを使った緩やかに可変する新しい地方都市の開発プロジェクトを狙いました。

新しい街区（エリア）を作る。そこにヒト・モノ・コトが集まり、横丁が生まれる。

しかし、現実には、入居者探しで難航。肝心の資金調達が出来たまでの間が長かった。

新幹線開業に間に合わなかったその夏にコンテナ1つをベースキャンプだと思い設置しましたが、その後もテナント探しに奔走する毎日でした。一度出店を決めてもらった事業者からお断りを頂いたり、まとまり始めたと思うと、修正を余儀なくされる。カタチが見えないものに対する不安。みんな「フルサット」に対して、どう理解して良いのか？という時間が続きました。

新幹線は開業したが、駅周辺開発は進まず、準備中のフルサットのテナントが決まらない！ということがニュースになったりしました。

あの時間は苦しかったです。今から考えると当たり前のことで、何か厚い雲を抜けないと安定しない、そこまでたどり着けない。周囲に確信を持ってもらうことが出来ない状態でしたが、地域の様々な現実、障壁を知ること、スタートアップの困難を知ることが出来た貴重な経験となったことは確かです。

フルサットという名にたどり着くまでに「上越妙高フルサット」など地名を入れるかどうか悩みました。フルサットが地域に根ざしながらも、あえて地名をつけないことの意味は、どの地域でも応用可能であると見通した期待からでした。必ず類似の事例が全国各地で起きようになる。フルサットにそんな願いを込めました。

そして、新幹線開業に遅れること1年3か月後にフルサットは5店舗でオープンしました。（つづく）



コンテナの搬入（2016年春）



雁木下の往来

## 上越産品販売のお知らせ

- ネットふるさと市場に「取次販売商品一覧」を同封します。

現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧（A3版1枚）を同封にてお届けします。会員は送料無料でお取り寄せができますので、どうぞご利用ください。

- 上越特産市場

上越市運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモール「上越特産市場」です。「上越特産市場 <https://www.joetsu-tokusan.jp/login/input.php>」からご覧いただき、お申込み下さい。

- 「新潟・上越妙高うまさ直送！  
雪国マルシェ」

恒例の上越特産品販売の「雪国マルシェ」は、下記にて予定しています。

日時 6月12日(土)、同13日(日)  
6月26日(土)、同27日(日)  
7月24日(土)、同25日(日)

会場 有楽町 交通会館1F。  
開業時間 11:30 - 17:30

- 常設店舗 「雪国商店」

場所 有楽町交通会館1F。

営業時間 11:00 - 19:00 年中無休  
(年末年始は休業)

ネットで「雪国商店」を検索してご覧ください。

☆お問い合わせ先：JCV 東京情報センター  
03 (5218) 7730

## 会員ひろば

### 上野駅

南城町1出身 溝口 良二

「どこかに故郷の香をのせて 入る列車のなつかしさ 上野は俺らの心の駅だ」

これは井沢八郎が歌った「ああ上野駅」の冒頭一節である。昭和60年上越新幹線が開業する以前は、進学や就職などで東京へ行く時には、直江津、高田から信越線で終着駅の上野で降りていた。しかし、上野駅は私たちには将来の夢を描く東京の第1歩の出発駅でした。

特に中央口エントランスにある朝倉文夫作の女性が両手を広げた「翼の像」は、私たちを未来に羽ばたけと勇気を与えてくれている。上野駅は同じ終着駅でも東京駅や新宿駅と異なり、どこか地方出身者たちに温もりと安堵感を与えてくれる。昭和30年代の桜の咲くころ、上野駅は幾多の集団就職列車がホームに着くと、不安げな若者たちがどっと降りてくる映像が放映されていたのを記憶している。

また、都内の主要な駅の中で、上野駅は開発が遅れていると思いますが、北陸新幹線が開業してからは上野駅にも新しい風が吹き始めました。高崎、宇都宮や水戸行の列車の始発駅が、上野から品川や小田原等からに変わりました。集団就職列車の発着ホームの一つが、豪華なトランスイート四季島のホームに変わり、博物館や美術館の出入口の公園口も新しく建て替えられた。

ワクチンの接種などが進み、コロナ感染が鎮静化したら、改めて上野駅を訪れて見てはいかがでしょうか、当時の思い出と新しい発見があるかもしれません。



朝倉文夫作  
「翼の像」



関東大震災後の上野駅

# 上越市からのお知らせ

## 「上越で働く」U・Iターン個別相談会の開催

U・Iターンに伴う、仕事を中心とした暮らし全般に関する相談をお受けします。ご家族やお知り合いにお知らせいただき、U・Iターンを検討している方がおられましたら、ぜひお伝えください。

日 時：8月14日(土) 午前10時～午後5時(1人45分間)  
場 所：WEB会議システム「Zoom」を使用し、オンラインで開催  
対 象：上越市へのU・Iターンを検討している人 募集人数：6人程度

申込締切：7月30日(金)までに電話(025-526-5111)または  
メール(jichi-chiiki@city.joetsu.lg.jp)で自治・地域振興課へご連絡ください。  
その他：相談時刻等は直接申込者へお知らせします。

## 瀧川鯉橋師匠 出演予定

鯉橋：03-3845-1202

### ◇6/14(月)七人の侍-真打勉強会-

時 間：午後2時～4時半ごろ。木戸銭：1500円  
出 演：枝太郎、鯉橋、鳳志、たけ平、こみち  
会 場：お江戸両国亭(両国)

### ◇7/3(土)東村山土曜寄席 in 秋津公民館

時 間：午後2時～4時ごろ  
木戸銭：1500円(前売・当日共) 出 演：幸吾、遊七、  
遊之介-お仲入り-陽・昇(漫才)、鯉橋  
会 場：東村山市秋津公民館(秋津町2-17-10)  
お問合せ：042-395-7511(東村山市立中央公民館)  
備 考：会場とお問合せ先が違いますのでご注意ください。

### 8/24(火)鯉橋の会 in 日本橋亭 vol.15

時 間：午後6時～8時ごろ。  
木戸銭：2000円(前売・予約1500円)  
出 演：鯉橋(二席)、ほか出演者未定。  
会 場：お江戸日本橋亭(三越前)  
お問合せ：03-5909-3080(芸協)

皆様、どうぞお気をつけて  
お過ごしくださいますよう。

瀧川鯉橋拝

## ●●●●●●●●●● ネットからののお知らせとお願い ●●●●●●●●●●

記事、寄稿、投稿、メッセージをお願いします。

会員の皆様には、ぜひとも、ご自分の経験、上越の魅力、上越に役立ちそうなこと、会員の親睦を深めることなどなんでも結構ですので、記事(1200字程度まで)と写真を送信いただければ幸いです。皆さまの貴重なお話は、読み手を元気にします。

送信先：k.miyazato@araipt.co.jp

コロナ禍の折、皆様には、くれぐれもご健康にご留意され、お過ごしくください。

◎次号「たより」は令和3年7月25日の発行です。

